

明けましておめでとうございます。 その6

大学共通第1次学力試験（だいがくきょうつうだいいちじがくりょくしけん）の後は、大学入試センター試験の時代となります。

1979年から1989年までの間、国公立大学の入学志望者を対象とした大学共通第1次学力試験（共通一次試験、共通一次）を実施していたが、これは、入学試験問題において、奇問・難問や重箱の隅をつつくような問題をなくし、一定の学力基準を測ることを目的として導入されたものでありました。

しかし、当時は有名私立大学は参加できないばかりか実際にはこういった設問を完全に排除することができず、1990年から、国立大学の共同利用機関である大学入試センターの実施する大学入試センター試験に変更し、私立大学も試験成績を利用できるようにするなど、試験自体を流動性のあるものに改めたのです。

2006年には英語科のリスニング試験が、世界で初めてICプレイヤーを利用したリスニング試験として実施され、機械に関するトラブルも含めて話題となりました。

国公立大学においては、（一部の推薦選抜などを除き）出願資格を「センター試験で本学が指定した教科・科目を受験した者」と規定しています。

生徒の学力低下を懸念して、ほとんどの国公立大学ではセンター試験で5（または6）教科7（または8）科目、合計950点分の受験が必須です。

多くの文系では外国語、国語、数学2科目、地理歴史および公民の中から2科目、理科の基礎を付した科目から2科目が、理系では外国語、国語、数学2科目、地理歴史又は公民のうち1科目、理科の基礎を付していない科目から2科目が主流となっています。

また、私立大学の参加も年々増加してきました。私大の場合、センター試験を入学者選抜にどう利用するかは、各大学が個別に決めている。英語リスニングの結果を採用しない大学[2]や、足切りのみの使用の大学もあります。

センター試験開設当初とセンター試験廃止年度までの30年間に、受験科目が増加・改定される一方で、出題や運営に関するトラブルも発生しました。難易度は科目や年度によってばらつきがあり、満点者が出ない教科がある年もありました。東京大学ですら第一次選抜を行わない年が現れる一方で、第1段階選抜得点を非常に高く要求する大学もあります。

そして、2020年1月中旬：2019年度（2020年度入学者選抜）センター試験（最終実施）。2021年1月中旬：2020年度（2021年度入学者選抜）から大学入学共通テストに移行し、センター試験を廃止。センター試験同様の6教科30科目で2日間となる予定も、英語4技能及び記述試験に関して、大きな変更があるようです。